



みなみっ子

8号

令和8年4月30日(木)

南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

学校教育目標 自立 協働 創造

今年度からの教育目標について

お子様がこれから歩いていく未来は、私たちが経験してきた社会とは大きく様変わりしようとしています。技術の進歩やグローバル化により、予測が困難な「正解のない時代」と言われています。そのような時代を生き抜く力を育むため、本校では教育目標として「自立・協働・創造」を掲げています。これらがなぜ今の子供たちに必要なのか、その真意をお伝えいたします。

1 「自立」：自ら考え、歩み続ける力

かつては「指示通りに動けること」が重視されましたが、これからは「自分はどうしたいか」という軸を持つことが不可欠です。今の時代における意味：失敗を恐れずに自分で決断し、その結果に責任を持つこと。また、自分の得意・不得意を理解し、自分を律する力を指します。**もちろん困った時は「教えて」「手伝って」と言えることも大切**
学校でのアプローチ：「何を学ぶか」を子供自身が選択する場面を増やし、自律的な学習習慣を養います。

2 「協働」：多様な価値観を力に変える力

AIの台頭により、一人で完結する作業の多くは自動化されます。人間にしかできないのは、「異なる背景を持つ人々と手を取り合い、大きな成果を出すこと」です。今の時代における意味：単なる「仲良し」ではなく、意見の対立を乗り越え、互いの強みを活かして共通のゴールを目指す力です。

学校でのアプローチ：グループワークや行事を通じ、多様な意見を聴き、合意形成を図るプロセスを重視します。

3 「創造」：新しい価値を生み出す力

既存のルールに従うだけでなく、「問いを立て、新しい解決策をつくる」力が求められています。今の時代における意味：ゼロから何かを作ることに限らず、今の仕組みをより良くするために工夫することや、新しい視点で物事を捉え直すクリエイティビティを指します。

学校でのアプローチ：正解が一つではない課題に対し、試行錯誤（トライ&エラー）を繰り返す探究学習を推進します。

結びに：学校と家庭で育む「生きる力」

「自立・協働・創造」は、それぞれが独立しているわけではありません。自立した個が集まり、多様な視点で協働し、より良い未来を創造する。このサイクルを回すことが、お子様が20年後、30年後の社会で「幸せに生きる」ための土台となります。学校での教育活動はもちろん、ご家庭でも「あなたはどう思う？（自立）」「一緒にやってみようか（協働）」「もっと楽しくするにはどうすればいいかな？（創造）」といったお声がけをいただけますと幸いです。私たち教職員一同、お子様一人ひとりの可能性を信じ、共に歩んでまいりましょう。

予測困難な時代を生き抜く力：本校が掲げる3つの教育目標

技術の進歩やグローバル化により「正解のない時代」が到来しています。

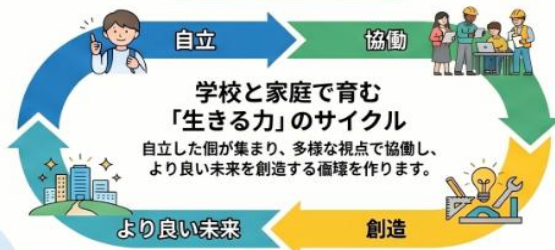
本校では、子供たちが20～30年後の未来を幸せに生き抜くための土台として、「自立・協働・創造」の3つの力を教育の柱としています。

「自立」：自ら考え、決断する力
失敗を恐れず自分で選択し、その結果に責任を持つ自律的な姿勢を養います。

「協働」：多様な価値観を力に変える力
意見の対立を乗り越え、他者と互いの強みを活かして共通のゴールを目指します。

「創造」：新しい価値を生み出す力
既存のルールに従うだけでなく、自ら問いを立て、試行錯誤しながら解決策をつくります。

目標	学校での具体的なアプローチ
自立	子供自身が「何を学ぶか」を選択する場面を増やす
協働	グループワークを通じて合意形成を図るプロセスを重視する
創造	正解が一つではない課題に対し、探究学習を推進する



家庭でできる「魔法の問いかけ」

「あなたはどう思う？」

「一緒にやろう」

「もっと楽しくするには？」

